

新資料が物語る

在りし日の 東日天文館

解説●小川誠治（渋谷星の会、東日天文館研究家）
協力●嘉数次人（大阪市立科学館）、
京都大学、梅本真由美

日本で2番目のプラネタリウムとして1938年に有楽町駅前前で開館した「東日天文館」は、それから7年を待たずに東京大空襲で焼失。書類や記録がほとんど残っていなかったが、このたび京都大学が所蔵する山本天文台資料の中から新しい資料が見つかった。



東日天文館は、東京日日新聞の社屋（東日会館内）に設置された、東京で初のプラネタリウム施設である。



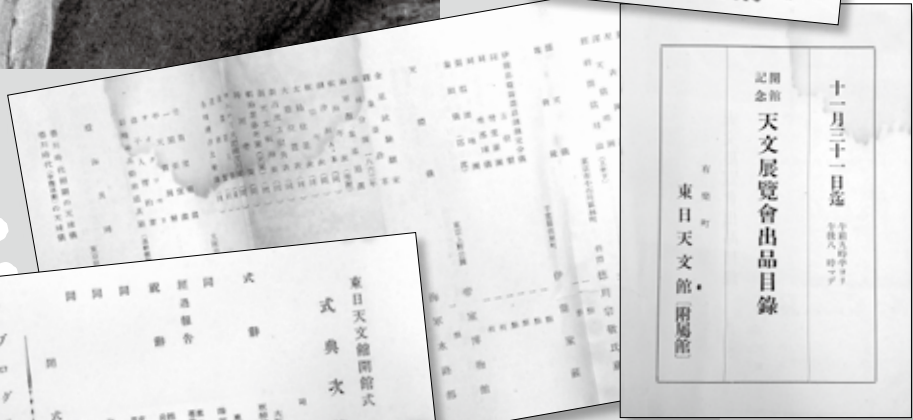
山本一清（1889～1959年）は研究のかたわら天文学の普及にも力を入れ、1920（大正9）年には「天文同好会」（現在の東亜天文学会）を結成し、多くのアマチュア天文家を育成した。また、天文に関する多数の入門書を出版し、昭和の中ごろまでの天文ファンの中には山本の著書に啓発されたという人も多い。



失われたプラネタリウム

東京・有楽町駅前にあった、東日天文館（後に毎日天文館と改名）は、1938（昭和13）年11月3日に日本で2番目のプラネタリウム施設として開館しました。しかし1945（昭和20）年5月25日の東京大空襲でプラネタリウムのあった階などが被弾し、焼失。カールツァイスII型が設置されていたこと、各種天文資料を閲覧できる展示場が併設されていたこと、戦争が始まった後も投影を続けていたことなどがわずかな記録からわかっていますが、不明な部分が多すぎて、日本のプラネタリウムの歴史を語る上での空白期間となっています。

そんな中、大阪市立科学館の嘉数次人学芸員らが、山本天文台資料の中に東日天文館に関する資料がいくつか含まれていたことを発見し、筆者が主にその分析にあたりました。山本天文台資料とは、滋賀県大津市にあった故山本一清の私設天文台の旧蔵資料のことで、2011年に建物が取り壊されたのを機に京都大学へ寄贈されたものです。京都帝国大学理学部教授で、初代花山天文台台長をつとめた天文学者・山本一清がなぜ東日天文館の資料を所蔵していたのかについて、嘉数氏は「山本氏は、天文学普及の一環としてプラネタリウムにも協力を惜しみませんでした。1937（昭和12）年にオープンした日本初のプラネタリウム施設である大阪市立電気科学館では、機械の導入にあたって専門家として協力し、初期には自ら解説も行っています。その後は東日天文館にも建設段階からアドバイスをを行ったようです」と述べています。



新たに見つかった資料の一部。上から「パンフレット『プラネタリウム 天象儀』」「開館記念 天文展覧會出品目録」とその表紙、「開館式 式典次第」。披露開館式の来賓に配布されたものと思われる。若干紙の傷みはあるものの、資料としては十分な状態。

日本初の女性解説員？

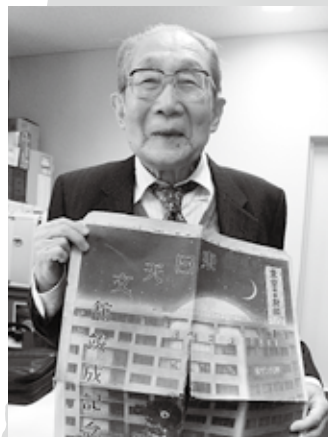
新資料は、大きく2つに分けられます。ひとつは、山本も招かれた1938(昭和13)年11月2日の披露開館式で、来賓に渡されたであろう配布物の数々です。「東日天文館開館式 式典次第」「開館記念 天文展覧会出品目録」「パンフレット『プラネタリウム 天象儀』」「パンフレット『十一月の天文館』」「冊子『星と宇宙とプラネタリウム解説』」「東日天文館絵葉書セット 2種類」以上6点が、「開館記念 贈呈 東京日日新聞社 東日会館」と書かれた封筒の中に入れてっていました。

目録は1枚の紙を四つ折りにしたパンフレットで、高橋景保作の天文測量図や安井春海作の星図、伊能忠敬作の象限儀をはじめ、合計96点をかぞえる展示資料名と点数、出品者が記されていました。これまで、当時の新聞か記憶でしか伝えられていなかったさまざまな展示物の詳細を明らかにする貴重なものです。また式典次第には、司会者や式辞を述べた人々の氏名、近衛文磨首相、荒木貞夫文部大臣、米内光政海軍大臣、ドイツのオット大使から祝辞があったこと、その後、午前11時からプラネタリウムの投影があり、正午から8階大食堂にて祝宴が開かれたことなどが書かれていました。

特に興味深かったのは絵葉書セットの中の1枚です。ドーム内を写した写真ですが、よく見ると観客で満席となっています。披露開館式の前に満席になるような投影を行っては来賓に失礼にあたりますから、これはいつ、どこで撮影されたものなのでしょうか。結論からいうと、1年半以上前に開館していた大阪市立電気科学館の写真を左右反転させて、地上風景を東日会館屋上から見たものに描き直し、また投影機も東日天文館に設置されたものに差し替えていたのでした。これは、東日天文館の絵葉書を左右反転させると、大阪市立電気科学館の絵葉書と同じ観客が写っていることから明らかです。

さて、ふたつめの新資料は、月1回天文講演会を行っていた「東日天文倶楽部」(のちに毎日天文同好会に改名)の会報誌第4号です。1940(昭和15)年5月17日に発行されたもので、講演会の内容や解説員などについても言及されています。それを点検したところ、これまで不明であった幾人かの解説員の氏名が明らかになったほか、その中に「千田菊子」という名前を発見したのです。

実は、国立科学博物館にお勤めだった故村山定男先生や、渋谷の五島プラネタリウム解説員だった大谷豊和先生から、「東日天文館で女性によるプラネタリウム解説を数回聞いた」という話を聞いており、ぜひそれについて調べてほしいと頼ま



れていました。この話が本当なら、プラネタリウムで星を語ってお給料をもらった日本最初の女性ということになります。ただ、名前もわからず記録もなかったため、どう調べればいいのかかわからない状態でした。今回、女性と思われる名前を解説員リストに見つけたことで、今後の調査へ向けた大きな一歩になると思われます。右の写真にある「千田菊子」さんやほかの解説員に心あたりがある方は、星ナビ編集部までご一報ください。

大阪で新資料を展示中

東日天文館は、単に「古いプラネタリウム施設だから貴重」なのではありません。「解説者が投影機の紹介をし、地上の風景を示した後、ポインターで星座解説、今月の天文の話題に入る」という解説スタイル、音楽、メカニクなどのあらゆるシステムが、以降の日本のプラネタリウムのお手本となったのです。戦後から現在に至るまで活躍する多くのプラネタリウム解説者の育成に多大な貢献をした施設といっても過言ではないでしょう。

現在、大阪市立科学館では、本記事で紹介した資料を展示する企画展が開催されています。山本天文台資料を所蔵する京都大学によると、大学での資料の公開は今年2月に終了しており、再開時期は未定とのこと。この貴重な機会に、ぜひご自分の目で数々の資料をご覧になってほしいと思います。



(左上)渋谷の五島プラネタリウムで開館時から解説員をつとめた大谷豊和先生(1928(昭和3)年生)は、1940(昭和15)年夏から毎月2回は東日天文館に通うほどの大ファンだったという。手にしているのは、東日天文倶楽部の会員証と会員バッジ。(左下)1930(昭和5)年生まれ河原都夫先生も、東日天文館でプラネタリウムを体験したひとり。五島プラネタリウムで開館より解説員をつとめ、現在でも、かわさき宙(そら)と緑の科学館で月に1回解説を行っている現役解説者だ。手にしているのは、東日天文館の竣工記念で発行された「東京日日新聞1938(昭和13)年11月5日竣工号1面」。

東日天文館の絵葉書



大阪市立電気科学館の絵葉書



披露開館式の来賓に配られた「実験中のプラネタリウム」と題された絵葉書(上)。満席の写真は、それより前に開館していた大阪市立電気科学館のドーム内写真(下)を反転させて流用したものとわかった。

同	同	同	同	東	同	同	同	同	同	同	天	東
同	同	同	同	日	同	同	同	同	同	同	文	日
同	同	同	同	文	同	同	同	同	同	同	館	文
同	同	同	同	館	同	同	同	同	同	同	支	館
同	同	同	同	支	同	同	同	同	同	同	部	配
同	同	同	同	部	同	同	同	同	同	同	長	人
同	同	同	同	部	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	部	同	同	同	同	同	同	部	部
同	同	同	同	部	同	同	同	同	同	同	長	部
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長
同	同	同	同	長	同	同	同	同	同	同	長	長

女性解説員と思われる名前があった、東日天文倶楽部会報誌第4号。「洋服を着て30代だったように思う。ミスがない真剣に聴いたが間違わなかった。解説したのは短期間だった。開館直後ではなくしばらくしてから(村山先生)」「いたのは短期間で、数回聞いた記憶がある(大谷先生)」という証言がある。

大阪市立科学館 企画展

一大阪市立電気科学館開館80周年記念—
電気科学館と日本のプラネタリウムの黎明期

大阪府大阪市北区中之島4-2-1

TEL 06-6444-5656

■会期 2023年7月22日(土)～8月17日(水) 17:00

■休館 月曜(8月14日は開館)

■料金 大人400円/高校・大学生300円

／中学生以下無料

終了しています